

第1回段丘林プロジェクト会議（会議録）

- 開催日 平成30年5月24日（木）15:00～
- 場 所 役場3階 中会議室
- 決定事項 ①サブリーダー 紅葉ラブリ（小林彩香）
②全体計画（ビジョン）を描いてから課題を整理する。
- 内 容 [記録係] 花粉なくし太郎（宮澤嵩）、竹林増太（遠山景太）
- ①内容の確認と町長の考えを共有
→資料のとおり
最終的なプレゼン内容は**全体計画（ビジョン）と段丘林のポイントごとの整備計画（やり方）**の提案でよいか理事者に確認した方がよいのでは。
- ②目的の共有
→段丘林整備には山林整備と景観整備の2種類あり同じ目的で考えることは難しい。課題から追っていくのではなく全体計画（ビジョン）を描いてから掘り下げていく方がよいのでは。課題等については山林所有者や整備をしている人たちとワークショップを行い、どんな問題や不安を抱えているのか直接聞いてみたい。
・今ある観光資源（例えば既存の遊歩道（+松源寺）や既にヤマザクラやコブシが群生している山など）と結び付けて整備する。
・目指す姿（ビジョン）を職員で考え、具体的なやり方は民間企業に提案させる。
- <夢から考える>
- ③どんな山になったらいいか
- ・金を生む山
→畑のように企業等に貸し付け商品となりうるものの栽培を行う。例えばつまもの栽培（お肉の下に敷いているヒノキの葉など）。 ※別紙参照
 - ・四季を通じて楽しめる山
→「桜の山」「モミジの山」というよりは同じ山の中に様々な樹種の木があって時期によって見え方が変わると面白い。
 - ・対岸からでなく町内から見てきれいに見える段丘林
→対岸から見てきれいな風景では町に訪れる必要がない。来てもらって良さを感じてもらうためには町の中から見えてきれいに見える場所の整備が必要。下から眺めるばかりでなく、高いところから見下ろす風景も。
 - ・ホテルだけでない天白峡
→ホテルの時期以外も天白峡を歩くと両側の山がきれいに色づいていると見栄えがするのでは。
 - ・カブトムシの森（体験型の山林）

→子ども達がカブトムシを取る場所が減っている。町内の人気スポットは胡麻目大橋の街頭下。子ども達が山に入って木を覚え山を知ってカブトムシが取れる環境を整備したい。

・あえていじらない今のままの素朴な風景

→観光客をターゲットにするのではなく新たな需要（ロケーション撮影を支援するフィルムコミッションやゲストハウスの設置など）を狙う。

④どんな木が増えたらいいか

- ・きれいな花が咲く、紅葉がきれいな樹種
- ・花粉が舞わない改良されたヒノキやスギ（町長の公約的にどうか…）
- ・クヌギ、コナラ（カブトムシがつく木）
- ・ハナミズキ（手入れがいらぬ）
- ・サクラ、ハナモモ（手入れが必要、虫がつく）
- ・モミジ（剪定がいるのでは…）
- ・キンモクセイ（匂いが…）

■次回 平成 30 年 6 月 14 日（木）9：00～

<第 2 回段丘林プロジェクト会議（現地調査）>

- ・きれいに整備されている竹林
 - ・一ノ沢のヤマザクラ、コブシ（山吹区より紹介）
 - ・城坂竹林整備予定地
 - ・アグリ交流センターからの眺望
 - ・カブトムシの森
 - ・暗い通学路（竜西線）
 - ・あんしん市場（ハナモモ）
 - ・広域農道から見る山林（景観計画重点地域）
- これらの場所を中心にコースを設定し現地調査を行う。

